

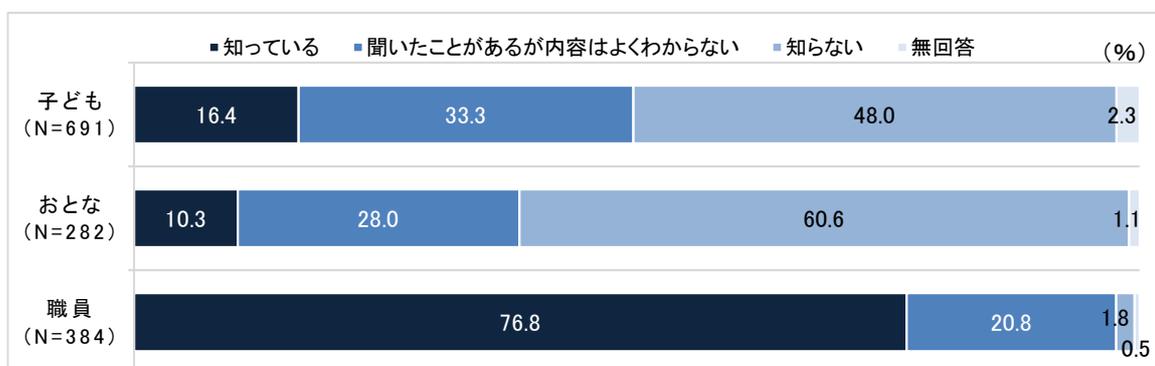
II アンケート調査の結果

1 子どもの権利条例について

(1) 条例の認知度

子どもの権利条例を「知っている」と回答する割合は、子どもが16.4%、おとなが10.3%、職員が76.8%、「聞いたことがあるが内容はよくわからない」と回答する割合は、子どもが33.3%、おとなが28.0%、職員が20.8%であった。子どもは48.0%、おとなは60.6%、職員は1.8%が「知らない」と回答している。

図1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【全体】

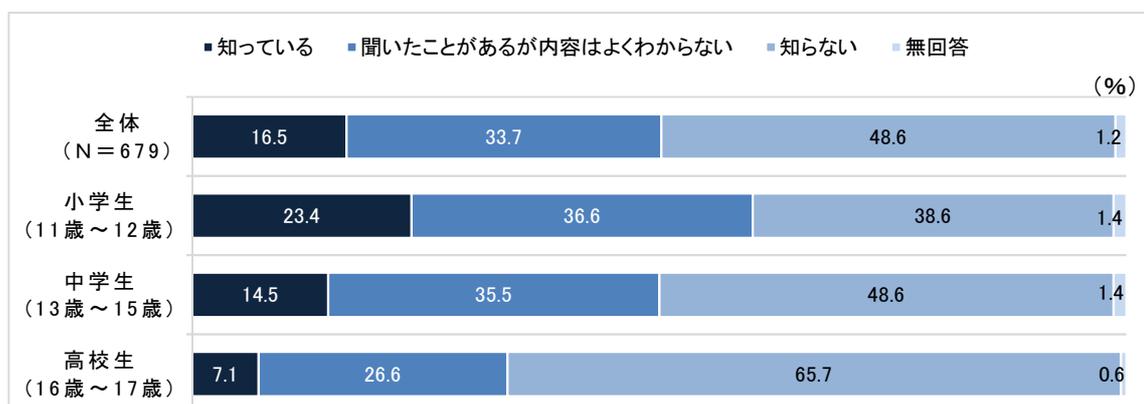


ア 子どもの認知度

【子ども：年齢別】

子どもを年齢別に見ると、「知っている」と回答する割合は小学生世代で23.4%、中学生世代で14.5%、高校生世代で7.1%と、年齢が上がるほど減少している。「聞いたことがあるが内容はよくわからない」と合わせてもその傾向は変わらず、小学生世代で学習したものの、年齢が上がるごとにその内容が薄れている可能性も考えられる。

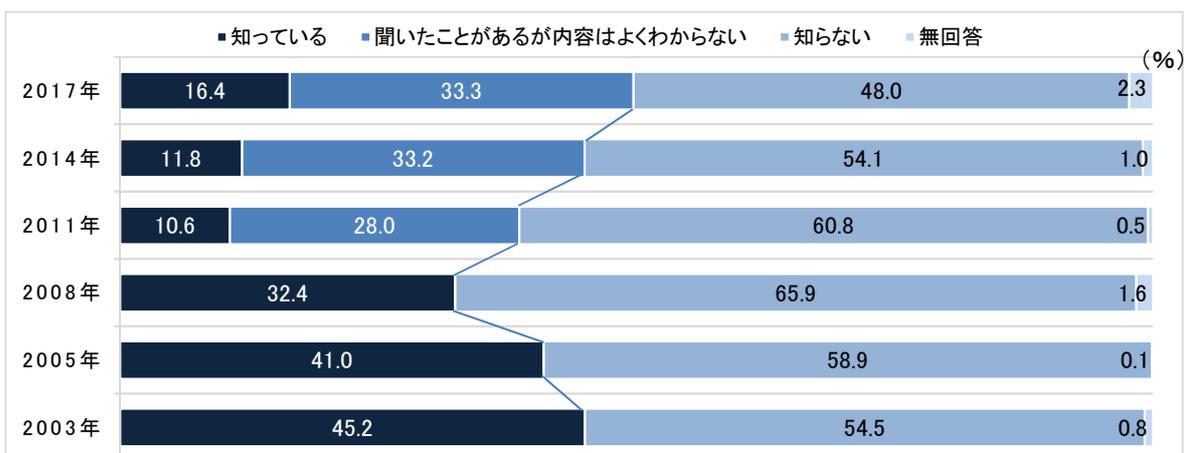
図2 Q1-1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【子ども：年齢別】



【子ども：経年比較】

第4回の調査から、新たに「聞いたことがあるが内容はよくわからない」を設けたため、「知っている」「知らない」と回答する割合を1～3回の調査と比較することはできないが、前回の調査と比較すると、条例を「知っている」人が11.8%から16.4%、「聞いたことがあるが内容はよくわからない」人が33.2%から33.3%と、いずれも増加している。「知らない」という回答の割合は過去最低であった。

図3 Q1-1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【子ども：経年比較】



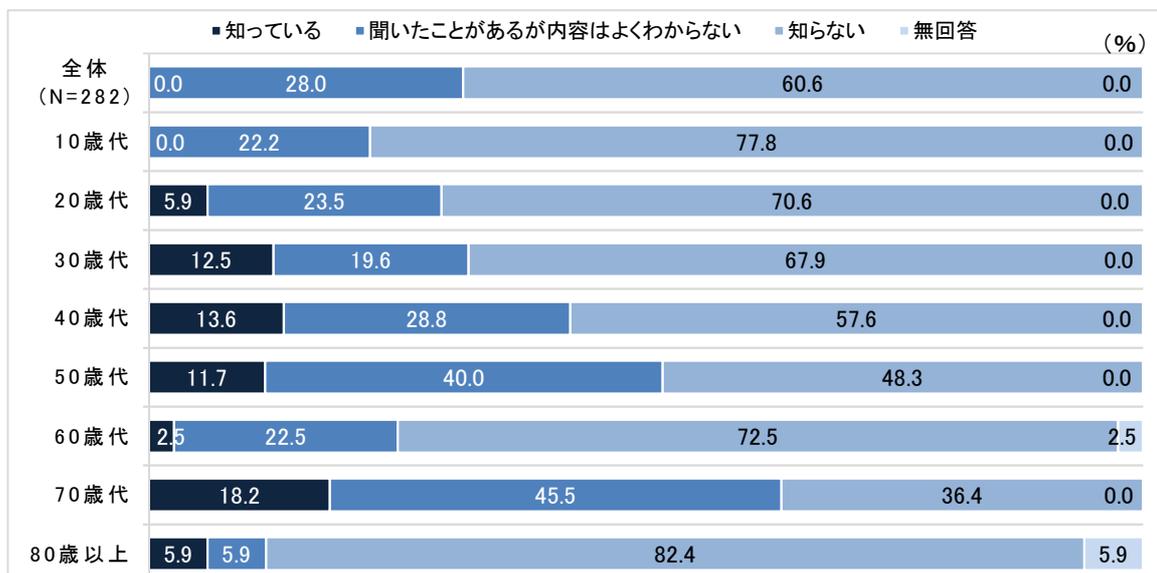
(注) 2003～2008年の調査では「知っている」「知らない」の2択

イ おとなの認知度

【おとな：年代別】

「知っている」「聞いたことがあるが内容はわからない」とする回答が最も多い年代は、70歳代で63.7%で、ついで、50歳代の51.7%、40歳代の42.4%であった。

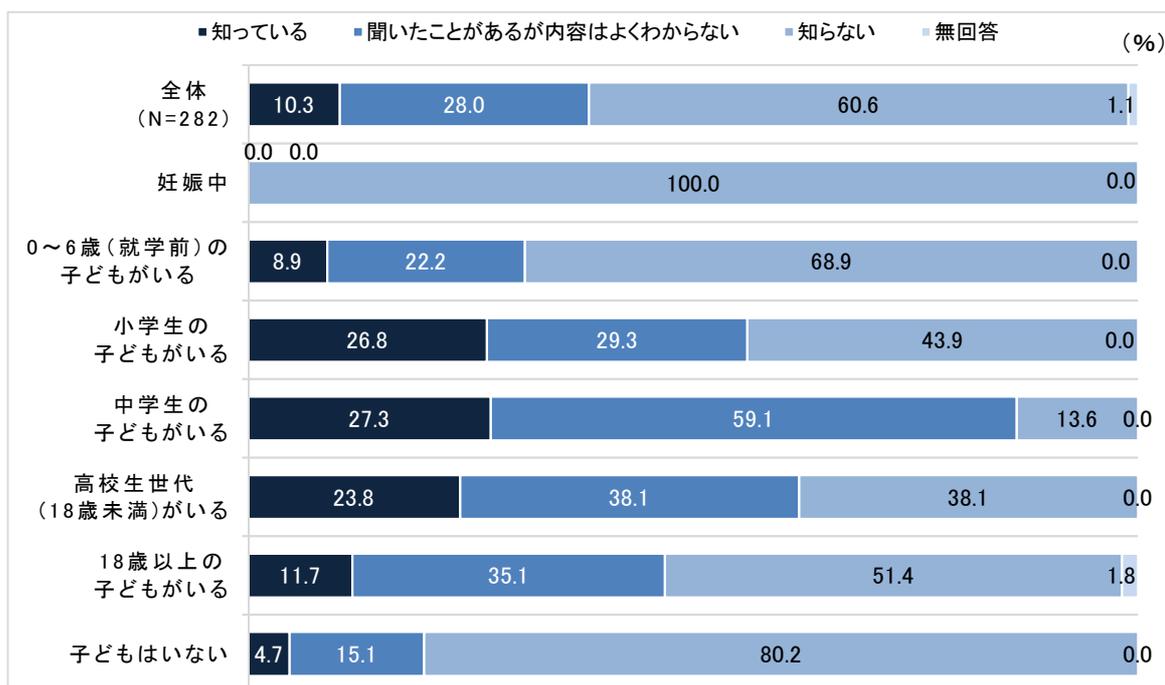
図4 Q1-1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【おとな：年代別】



【おとな：子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、条例を「知っている」「聞いたことがあるが内容はわからない」と回答する割合が最も高かったのは「中学生の子どもがいる」おとなで86.4%。次いで「高校生世代(18歳未満)がいる」おとなが61.9%、「小学生の子どもがいる」おとなが56.1%であった。これに対し、「0～6歳(就学前)の子どもがいる」は31.1%、「子どもはいない」おとなは19.8%であった。

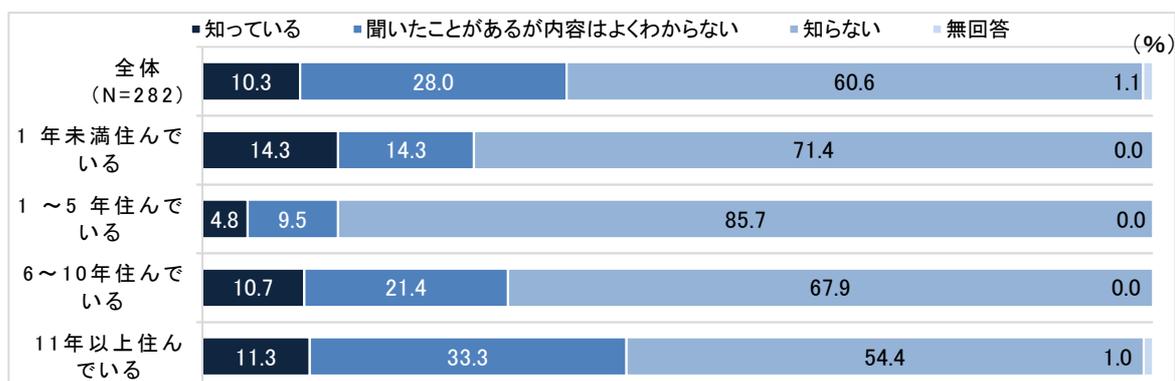
図5 Q1-1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【おとな：子どもの有無別】



【おとな：居住期間別】

居住期間別で見ると、条例を「知っている」「聞いたことがあるが内容はわからない」と回答する割合が最も高かったのは「11年以上住んでいる」おとなが44.6%。次いで「6～10年住んでいる」おとなが32.1%であった。

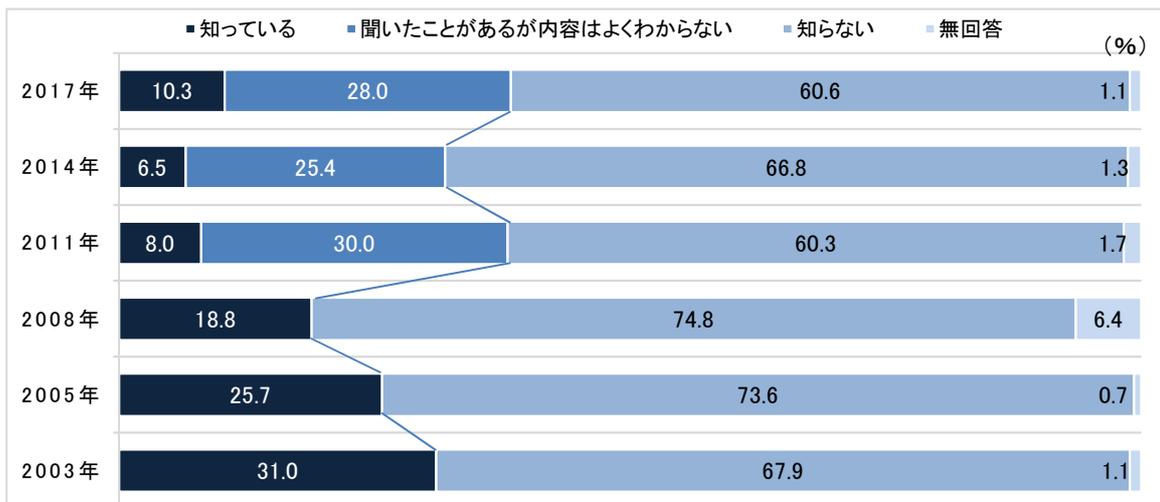
図6 Q1-1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【おとな：居住期間別】



【おとな：経年比較】

子どもと同様、第4回の調査から、新たに「聞いたことがあるが内容はよくわからない」を設けたため、「知っている」「知らない」と回答する割合を1～3回の調査と比較することはできないが、前回の調査と比較すると、条例を「知っている人」が6.5%から10.3%、「聞いたことがあるが内容はよくわからない」人が25.4%から28.0%と、いずれも増加している。

図7 Q1-1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【おとな：経年比較】



(注) 2003～2008年の調査では「知っている」「知らない」の2択

ウ 職員の認知度

【職員：学校・施設別】

学校関係職員の75.4%、施設関係職員の78.9%が条例を「知っている」と回答した。

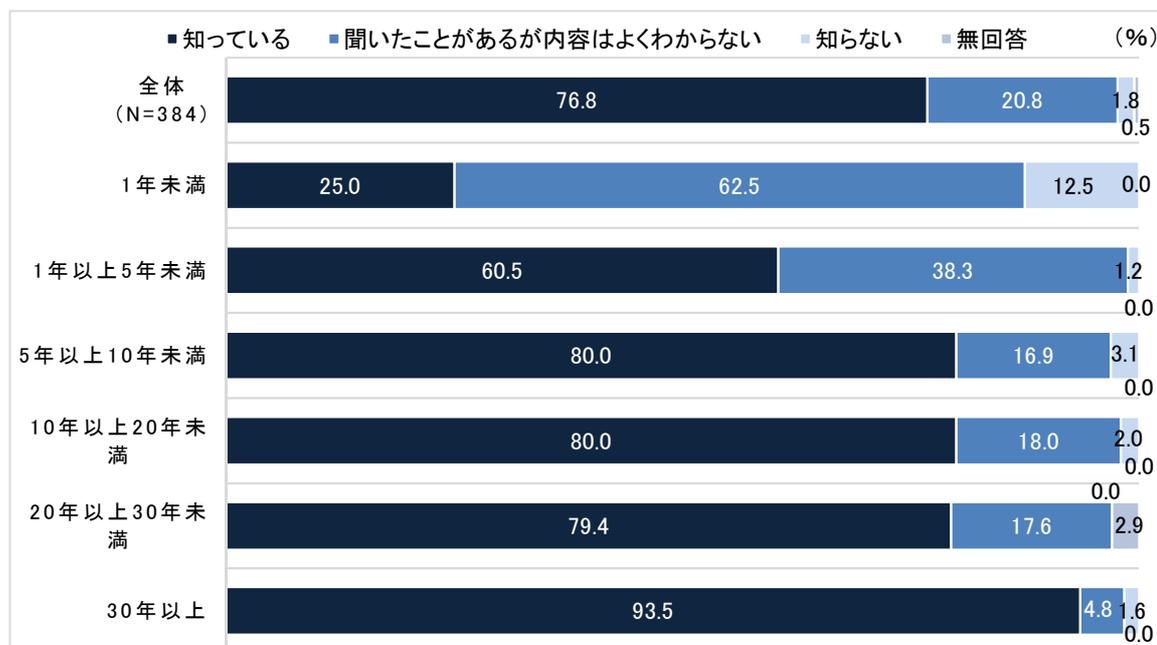
図8 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【職員：学校・施設別】



【職員：勤続年数別】

おおよそ勤続年数が長い職員ほど「知っている」と回答する割合が増加する傾向があり、30年以上の勤続年数の職員は93.5%が「知っている」と回答した。

図9 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【職員：勤続年数別】



【職員：経年比較】

子ども・おとなと同様、第4回の調査より、新たに「聞いたことがあるが内容はよくわからない」を設けたため、「知っている」「知らない」と回答する割合を1～3回の調査と比較することはできないが、条例を「知っている」職員が前回調査の75.6%から76.8%へと増加している。

図10 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【職員：経年比較】



(注) 2003～2008年の調査では「知っている」「知らない」の2択

(2) 条例の認知方法 (条例を「知っている」「聞いたことがある」と回答した人)

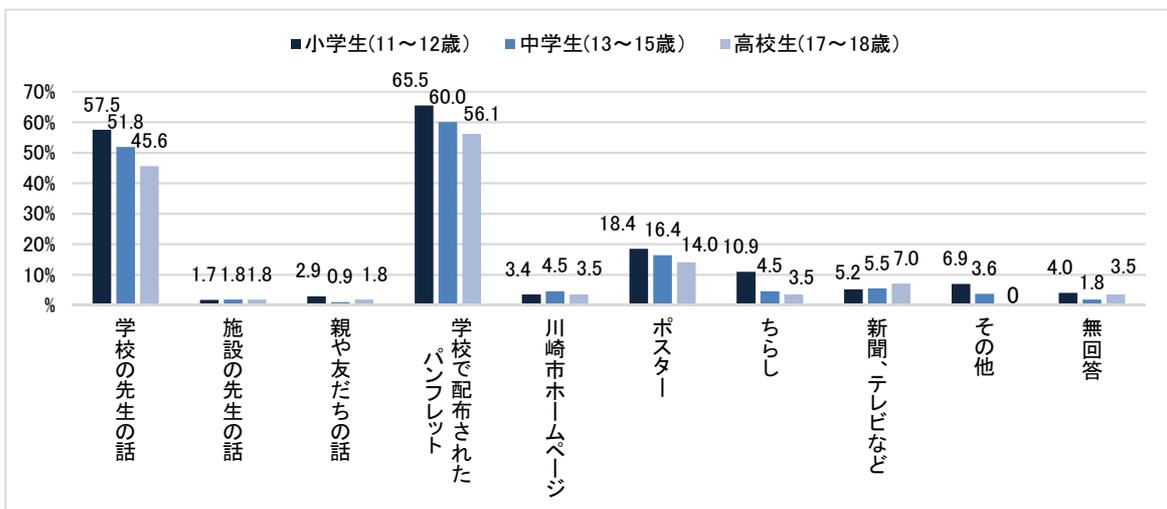
ア 子ども

【子ども：年齢別】

年代別に見ると、小学生・中学生・高校生世代ともに、「学校で配布されたパンフレット」「学校の先生の話」と回答する割合が高かった。

図11 Q1-2 川崎市子どもの権利条例をふだんどのような方法で見たり聞いたりしますか。

【子ども：年齢別】



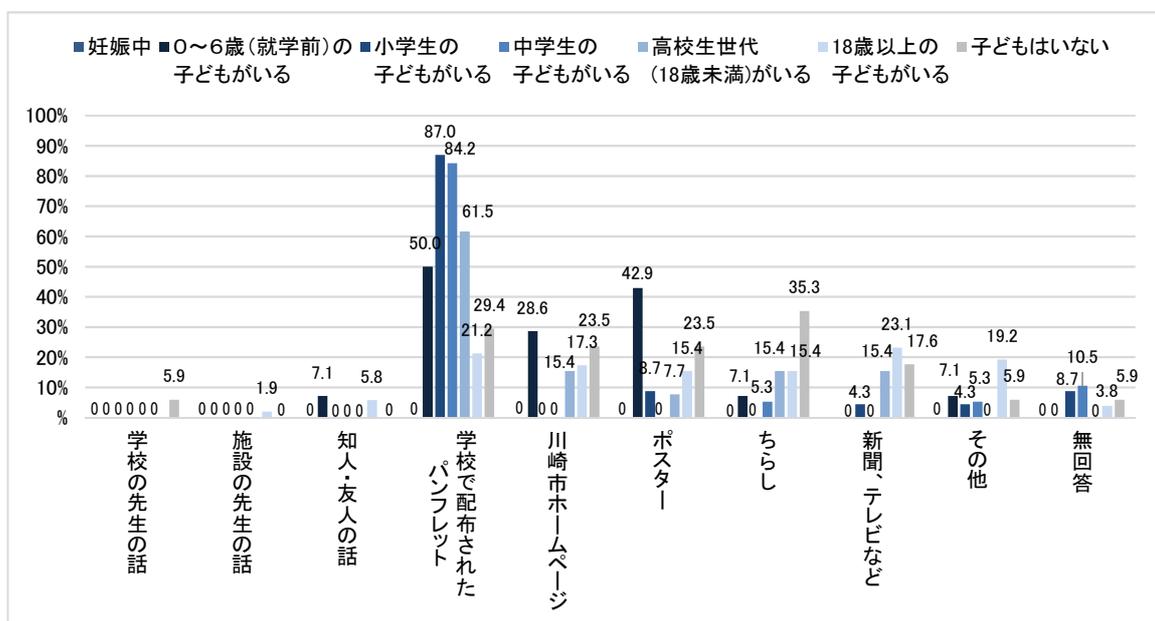
イ おとな

【おとな：子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、子どもの年代に関わらず、最も割合の高い回答は「学校で配布されたパンフレット」であった。「学校で配布されたパンフレット」を見る機会がないと思われる「18歳以上の子どもがいる」おとなや「子どもはいない」おとなでは、「ちらし」や「川崎市ホームページ」の回答の割合の高かった。また、「0~6歳(就学前)の子どもがいる」おとなでは、「ポスター」という回答の割合が高かった。

図12 Q1-2 川崎市子どもの権利条例をふだんどのような方法で見たり聞いたりしますか。

【おとな：子どもの有無別】



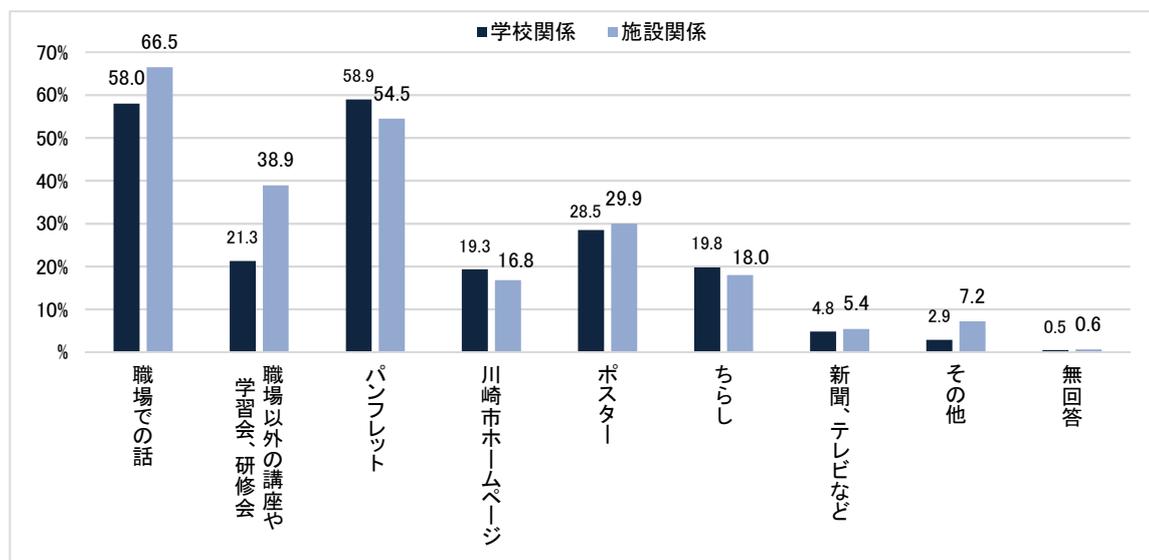
ウ 職員

【職員：学校・施設別】

学校関係の職員・施設関係の職員ともに、「職場での話」「パンフレット」という回答の割合が高かった。施設関係の職員は、「職場以外の講座や学習会、研修会」も 38.9%と比較的高い回答割合であった。

図13 Q2 川崎市子どもの権利条例をふだんどのような方法で見たり聞いたりしますか。

【職員：学校・施設別】



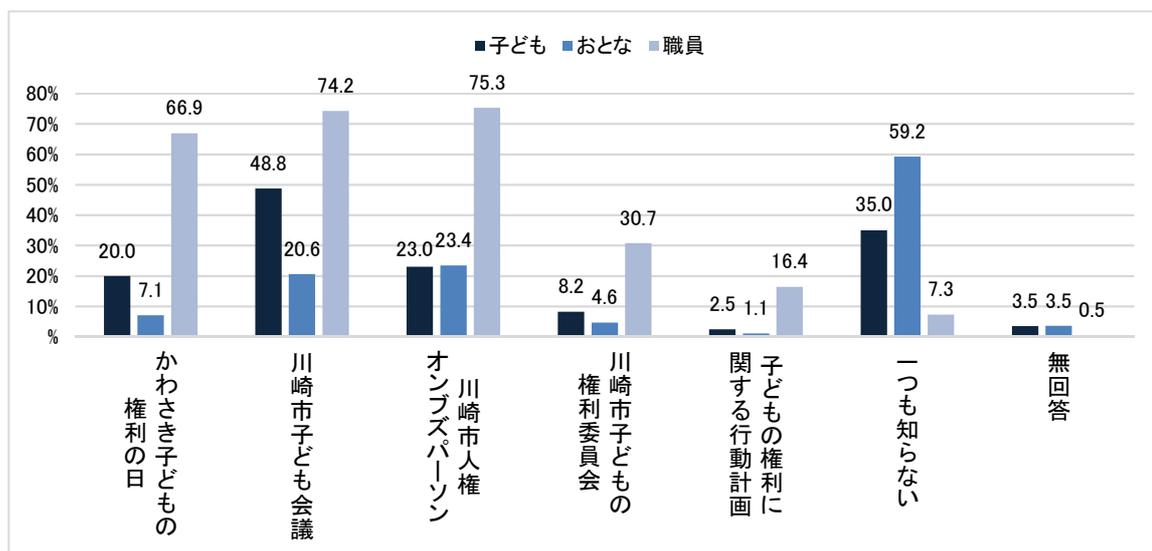
(3) 条例にもとづく制度の認知度

子どもの回答の割合で最も高いのが「川崎市子ども会議」の48.8%で、次いで「川崎市人権オンブズパーソン」の23.0%であった。また、「一つも知らない」とする回答の割合は35.0%であった。

おとなは、全体的に認知度が低く、59.2%のおとなが「一つも知らない」と回答した。知っているものの中では、「川崎市人権オンブズパーソン」(23.4%)、「川崎市子ども会議」(20.6%)が比較的高かった。

職員では、「川崎市人権オンブズパーソン」が75.3%と最も高く、次いで「川崎市子ども会議」で74.2%、「かわさき子どもの権利の日」で66.9%という結果であった。

図14 次の川崎市のしくみで知っているものは何ですか。【全体】



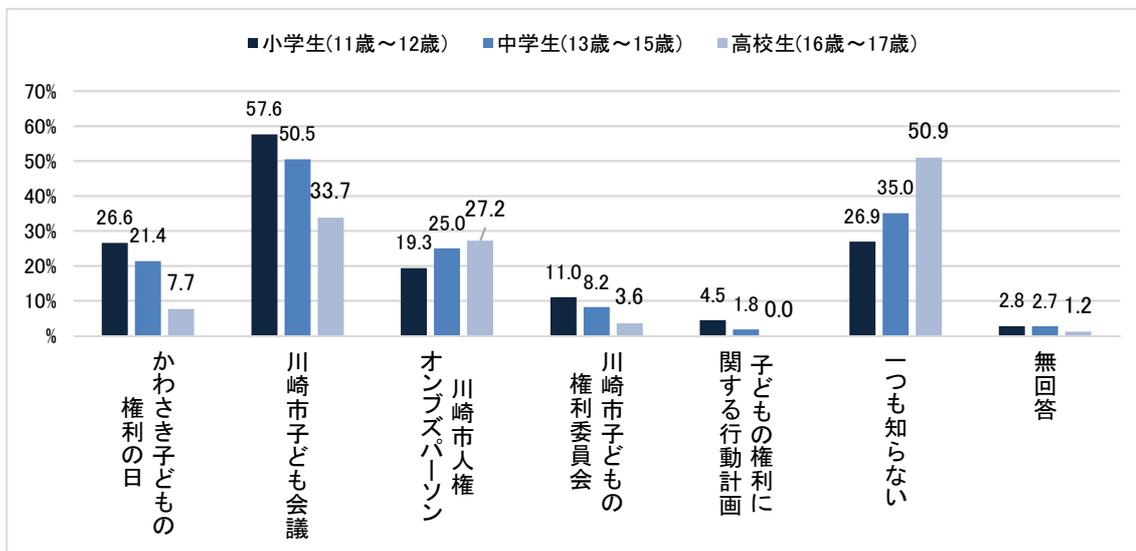
ア 子どもの認知度

【子ども：年齢別】

年齢別にみると、子ども全体として最も回答の割合が高かった「川崎市子ども会議」は、小学生世代が57.6%、中学生世代で50.5%、高校生世代で33.7%と年齢が上がるにしたがって認知度が低下する傾向にあり、「かわさき子どもの権利の日」も同様であった。「一つも知らない」という回答は年齢が上がるにしたがって増加する傾向にあり、高校生世代で50.9%と半数以上に達する結果であった。

一方で、子ども全体で2番目に割合が高かった「川崎市人権オンブズパーソン」は、小学生世代より中学生世代、高校生世代の方が認知度が高いという結果であった。

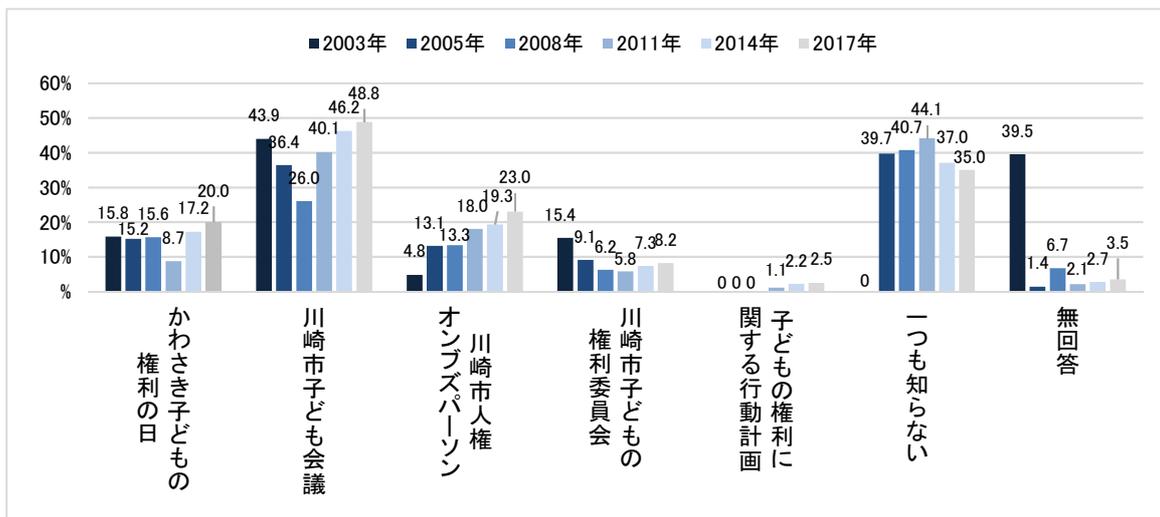
図15 Q2 次の川崎市のしくみで知っているものは何ですか。【子ども：年齢別】



【子ども：経年比較】

「かわさき子どもの権利の日」「川崎市子ども会議」「川崎市人権オンブズパーソン」「川崎市子どもの権利委員会」「子どもの権利に関する行動計画」のすべての項目において、前回調査より認知度が上昇している。「一つも知らない」とする回答も今回の調査がもっとも低い割合である。

図16 Q2 次の川崎市のしくみで知っているものは何ですか。【子ども：経年比較】



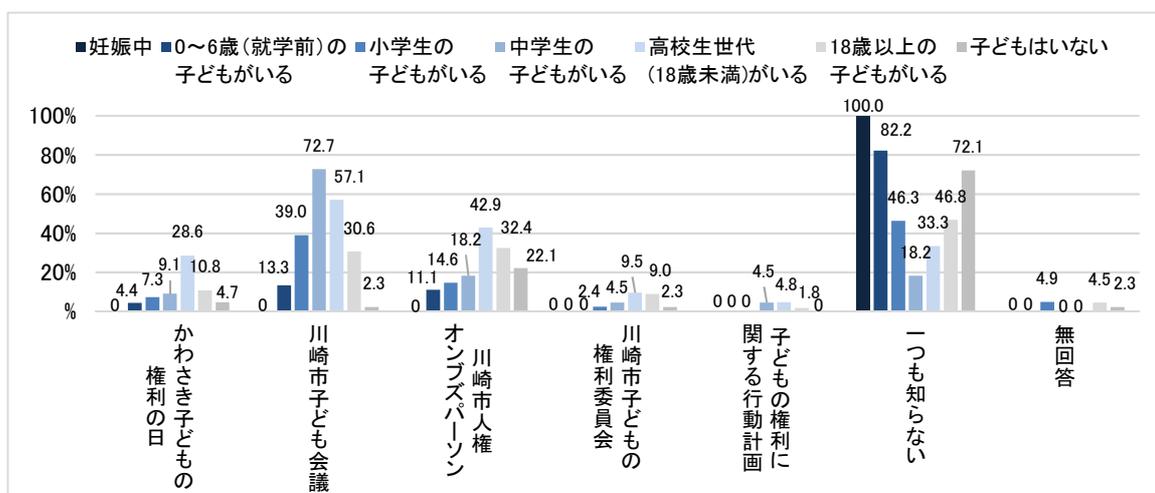
イ おとなの認知度

【おとな：子どもの有無別】

子どもがいるおとなのほとんどにおいて、「川崎市子ども会議」の認知度が最も高く、「高校生世代（18歳未満）の子どもがいる」おとなでは、「川崎市人権オンブズパーソン」の認知度が比較的高かった。

「一つも知らない」と回答する割合は、「妊娠中」のおとな、「0歳～6歳（就学前）の子どもがいる」おとな、「子どもはいない」おとなが高くなっている。

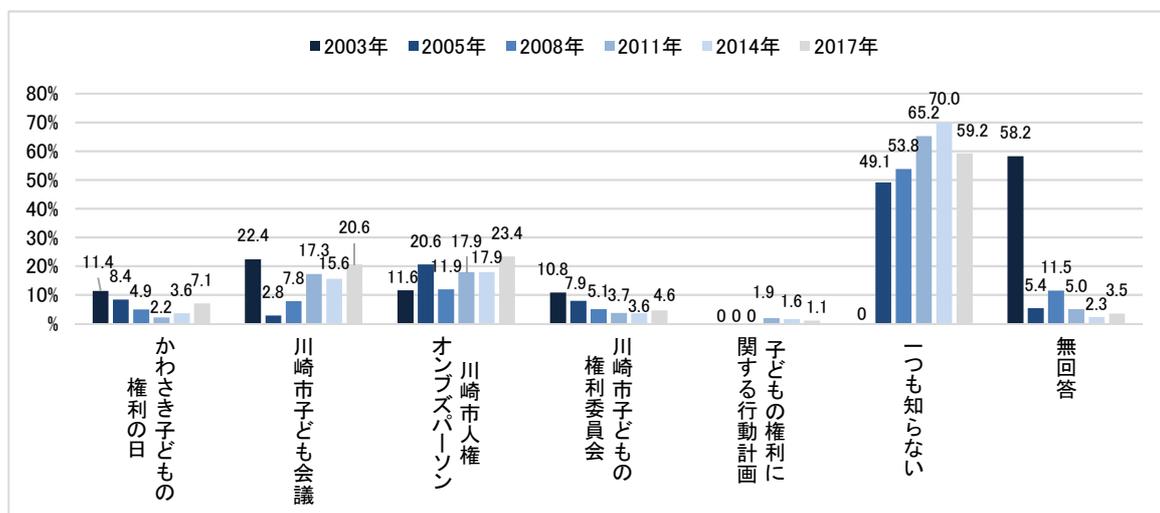
図17 Q2 次の川崎市のしくみで知っているものは何ですか。【おとな：子どもの有無別】



【おとな：経年比較】

今回の調査では、前回調査（2014年）と比べて「かわさき子どもの権利の日」「川崎市子ども会議」「川崎市人権オンブズパーソン」「川崎市子どもの権利委員会」の認知度が上昇している。

図18 Q2 次の川崎市のしくみで知っているものは何ですか。【おとな：経年比較】

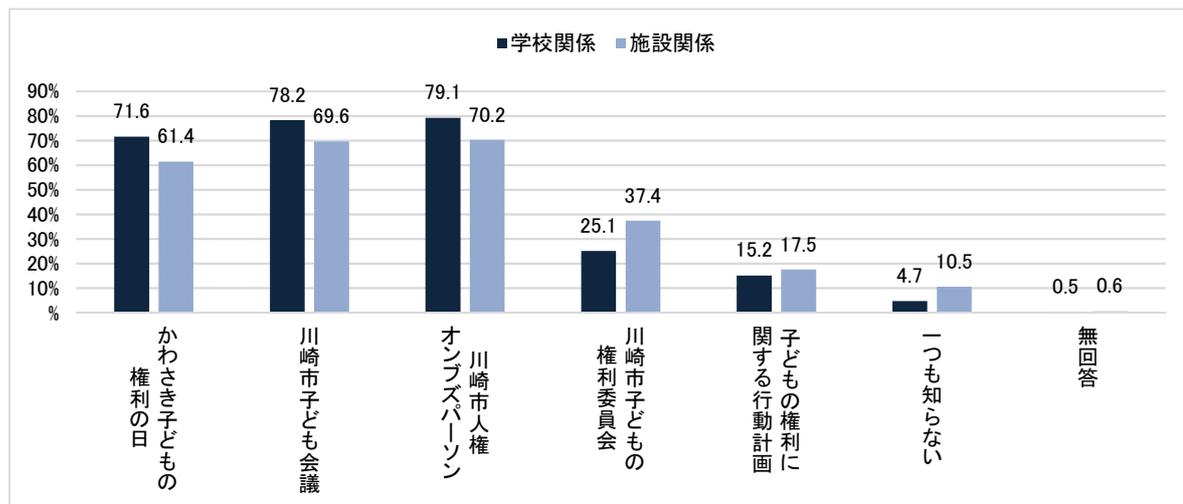


ウ 職員の認知度

【職員：学校・施設別】

学校関係の職員・施設関係の職員ともに、「かわさき子どもの権利の日」「川崎市子ども会議」「川崎市人権オンブズパーソン」を知っていると回答する割合が高かった。いずれも、学校関係の職員の方が施設関係の職員よりも回答の割合が高かった。

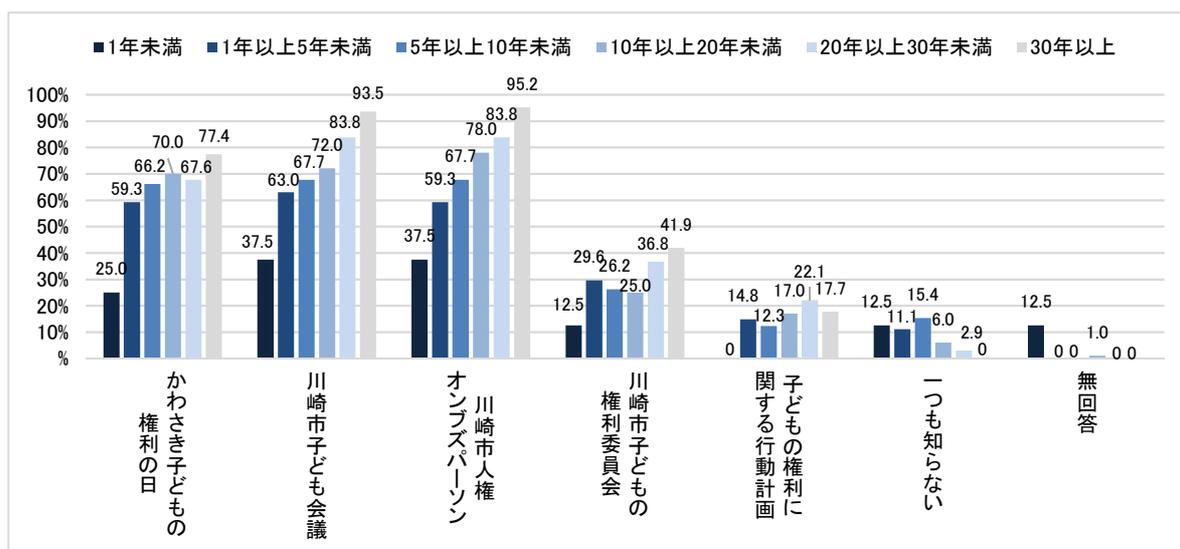
図19 Q3 川崎市のしくみで知っているものは何ですか。【職員：学校・施設別】



【職員：勤続年数別】

おおそ勤続年数が高いほうがそれぞれの制度の認知度が高い傾向にある。

図20 Q3 川崎市のしくみで知っているものは何ですか。【職員：勤続年数別】



【職員：経年比較】

今回の調査では、「かわさき子どもの権利の日」「川崎市子ども会議」「川崎市人権オンブズパーソン」の認知度が前回調査より上昇し、「かわさき子どもの権利の日」は過去最高となっている。

図21 Q3 川崎市のしくみで知っているものは何ですか。【職員：経年比較】

